

ダム湖におけるコクチバス捕獲手法の検討

臼杵崇広・酒井明久・田口貴史

1. 目的

県内においてコクチバスの分布の拡大が危惧されている。そこで、効果的な捕獲手法について検討した。

2. 方法

これまでに本種の繁殖が確認されているダム湖A（湖東地域）およびダム湖C（甲賀地域）において、前者では平成29年5月9、12、19日の3回、後者では平成29年4月21日、5月2、15日の3回、目視によって確認された産卵床上に円型刺網、カゴ網、小型三枚網（写真1）を2時間設置し、捕獲を試みた。

3. 結果

産卵床上に円型刺網を被せて設置し、観察していると親魚が円型刺網の周囲をしばらく回遊した後、網目に掛かりながらも潜り抜けて中に入ってすぐに出ていく様子が観察された。合計12回設置したものの1回捕獲されただけであった（捕獲率8.3%）。この観察結果を受けて、円の直径に当たる部分に刺網（目合70mm）を追加したが（新型円型刺網）、合計14回の設置で1回捕獲されるにとどまった（捕獲率7.1%）。

これに対して、遮光シートを被せた遮光型カゴ網を産卵床上に設置したところ、合計10回の設置で7回の捕獲があった（捕獲率70.0%）。しかし、遮光シートを被せなかった通常のカゴ網では3回の設置で1回も捕獲できなかった（捕獲率0%）。

また、長野県水産試験場が開発した小型三枚網を3回設置したところ、2回の捕獲があった（捕獲率66.7%）。このうち一回は一度に2尾が捕獲された。

円型刺網や小型三枚網では目合いによって捕獲サイズが限定されたことから、今回の調

査ではそれぞれ標準体長22.4~26.9cm、19.9~21.6cmと小型の個体の捕獲のみであったが、遮光型カゴ網では18.4~34.3cmまでさまざまなサイズが捕獲された（図1）。

以上のことから、産卵床での捕獲には遮光型カゴ網や小型三枚網による捕獲が有効であることが明らかになった。小型三枚網での捕獲調査回数が少なかったことから、単純に比較はできないが、少なくとも遮光型カゴ網は産卵期に親魚サイズを選ばずに捕獲できる有効な捕獲手法であると言えよう。



写真1 捕獲漁具

左上：新型円型刺網
目合（外網90mm、内網70mm）
右上：遮光型カゴ網
目合（18mm角）
左：小型三枚網（長野県開発）
目合（外網30mm、内網60mm）

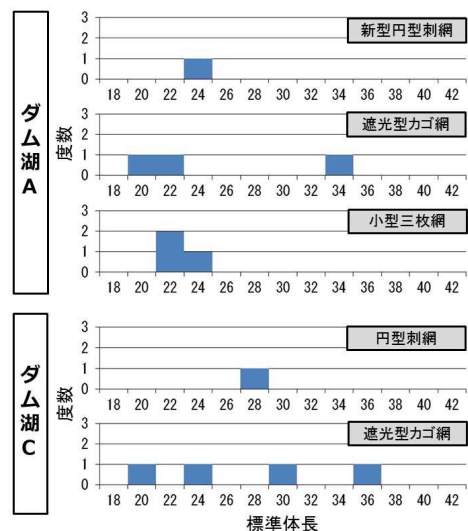


図1 ダム湖における漁具ごとの捕獲サイズ